

はしがき

平成 16 年度から平成 18 年度に実施された本研究課題は、90 年代後半からの民主化・地方分権化の動きのなかで大きな社会経済変容に直面しているインドネシアにおいて、地方分権化が地域の自然資源管理や社会経済活動に及ぼしている影響を明らかにするために構想された。京都大学は、スラウェシ島、なかでも南スラウェシ州において臨地調査の長い経験を有しており、同州の国立ハサヌディン大学と緊密な協力関係を築いてきた。本研究課題は、その協力関係を基盤に、スラウェシ島を中心にこの研究目的に迫ることとし、同大学との緊密な共同体制のもとに実施された。

「スラウェシ地域研究に向けて」という本研究課題の副題が示すように、調査の対象となったのは、南スラウェシ州にとどまらず、スラウェシ島北部のゴロンタロ州、中部の中スラウェシ州に及んでいる。南スラウェシ州においては、この島を特徴づける山地と島嶼という二つの生態環境に着目して、同州北部のタナトラジャ地域およびマカッサル海峡に散らばるスプルモンデ諸島を主要な調査地域とした。両地域が、生態環境を視野に入れながらスラウェシ地域研究の一つのモデルケースとなると判断したからである。

また、スラウェシ島における社会経済変容を探るうえで、同島と他地域との関係、とくに人やモノの移動をも視野に入れた地域間の経済活動にも目を向ける必要がある。と同時に、スラウェシ島周辺で繰り広げられてきた人々の交流史もスラウェシ地域研究に欠かすことができない研究課題である。地域が、その土地から得られる資源だけでなく、他地域とのネットワークのなかで得られる資源にも依存しながら形成されるという考えにもとづいて、本研究課題では、スラウェシ島とカリマンタン島やその他の地域とのあいだの人やモノ、情報の移動についても調査を行った。

研究調査と並行して、本研究課題を遂行するにあたって、ハサヌディン大学におけるスラウェシ地域研究のための基盤整備にも力を注ぐこととした。21 世紀 COE プログラム「世界を先導する総合的地域研究拠点の形成」(平成 14 年度～平成 18 年度)によってハサヌディン大学に設置されたマカッサル・フィールド・ステーションの整備・運営に研究代表者・分担者の多数が関わり、この研究拠点を、プロジェクトの研究期間終了後もスラウェシ地域研究の拠点として維持する体制を整えた。同ステーションには、この成果報告書末尾に示したように、スラウェシ地域研究に資する多数の関連図書・資料・地図等が整備されるようになり、本研究課題の研究者だけでなく、スラウェシ研究に携わる内外の研究者・学生に利用されている。

本成果報告書は、以上の 3 カ年にわたる研究活動をもとに、代表者・分担者・研究協力者が新たに書き下ろした調査報告をとりまとめたものである。本書をもとにスラウェシ地域研究の今後の展開に向けた研究成果をさらに公刊する予定であるが、まずは、その成果の一端を本書から汲みとっていただければ幸いである。

研究組織

- 研究代表者： 田中 耕司（京都大学地域研究統合情報センター教授）
- 研究分担者： 水野 広祐（京都大学東南アジア研究所教授）
- 研究分担者： 岩田 明久（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助教授）
- 研究分担者： 五十嵐忠孝（京都大学東南アジア研究所助教授）
- 研究分担者： 岡本 正明（京都大学東南アジア研究所助教授）
- 研究分担者： 長津 一史（東洋大学社会学部助教授）
- 研究分担者： 市川 昌広（総合地球環境学研究所研究部助教授）
- 研究分担者： 遅沢 克也（愛媛大学農学部助教授）
- 研究分担者： 赤嶺 淳（名古屋市立大学人文社会学部助教授）
- （研究協力者）： 山田 勇（立命館大学アジア太平洋大学客員教授）
- （研究協力者）： 松井 和久（独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター専任調査役）
- （研究協力者）： 濱元 聡子（京都大学東南アジア研究所教務補佐員）
- （研究協力者）： Aziz Salam（愛媛大学大学院農学研究科博士課程院生）
- （研究協力者）： 島上 宗子（NPO法人「いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク」代表）
- （研究協力者）： 小野林太郎（人間文化研究機構国立民族学博物館外来研究員）
- （研究協力者）： Dadang Ahmad Suriamihardja（ハサスディン大学環境研究所教授）
- （研究協力者）： Jamaluddin Jompa（ハサスディン大学珊瑚礁域生態研究所教授）
- （研究協力者）： Dias Pradimana（ハサスディン大学東部インドネシア地域研究所主任研究員）
- （研究協力者）： Andi Amri（ハサスディン大学海洋水産学部講師）

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 16 年度	10,600	3,180	13,780
平成 17 年度	10,600	3,180	13,780
平成 18 年度	11,000	3,300	14,300
総 計	32,200	9,660	41,860

研究発表

(1) 学会誌等

- Bannu Abdulsamad and Dadang A. Suriamihardja. “Analisis Dampak Interaksi Monsun dan ENSO di atas Benua Maritim Indonesia.” *Jurnal Ecocelebica*, 1 (1): 1-9, 2004.
- Hamzah, M. A. and Dadang. A. Suriamihardja. “Model Retribusi Pembuangan Limbah Cair Industri.” *Jurnal Ecocelebica*, 1 (1): 28-39, 2004.
- Mizuno, Kosuke. “The rise of labor movements and the evolution of the Indonesian system of industrial relations: A case study.” *The Developing Economies*, 43 (1): 190-211, 2005.
- 岡本正明「インドネシアにおける地方政治の活性化と州「総督」の誕生—バンテン地方の政治：1998-2003」『東南アジア研究』43 (1): 3-25, 2005.
- 岡本正明「年おくれの「改革」—2004年インドネシア・南スラウェシ州におけるゴルカル党の凋落」『アジア研究』51 (2): 62-82, 2005.
- 遅沢克也「チンタ・ラウト号の建造とその探検航海」『農林統計調査』1月号: 2-3, 2005.
- Osozawa, Katsuya. “Prospects on maritime society studies in relation to the Cinta Laut project.” *Jurnal Ecocelebica*, 1 (2): 2005.
- Osozawa, Katsuya. “A thought on prospects on maritime society studies in relation to the Cinta Laut Project.” *Jurnal Ecocelebica*, 1 (3): 149-153, 2005.
- Osozawa, Katsuya (Aziz Salam). “Construction of Phinisi Cinta Laut, a research ship.” *Jurnal Ecocelebica*, 1 (3): 177-184, 2005.
- Akamine, Jun. “Role of the trepang traders in the depleting resource management: A Philippine case.” *Senri Ethnological Studies*, No. 67: 259-278, 2005.
- Akamine, Jun. “International intervention is not the only way to save depleting resources.” *Journal of Chinese Dietary Culture*, 1 (2): 1-30, 2005.
- 赤嶺淳「資源管理は地域から—地域環境主義のすすめ」*Tropical Ecology Letters*, No. 58: 1-7, 2005.
- Matsui, Kazuhisa. “Post-decentralization regional economies and actors: Putting the capacity of local governments to the test.” *The Developing Economies*, 43 (1): 171-189, 2005.
- 島上宗子「スラウェシの地域再生運動」『グラフィケーション』140: 27-29, 2005.
- 田中耕司「論壇：鳥の目と虫の目—農業景観へのアプローチ」『農業』1486: 4-5, 2006.
- Mizuno, Kosuke. “Introspection and prospect for Southeast Asian studies: Globalization and localization” 『亞太研究論壇』第33期: 85-100, 2006.
- 岡本正明「書評 Richard Robison and Vedi R. Hadiz, Reorganizaing Power in Indonesia: The Politics of oligarchy in an Age of Markets」『アジア研究』52 (4): 111-115, 2006.
- 赤嶺淳「同時代をみつめる眼—鶴見良行の辺境学とナマコ学」『ビオストーリー』6: 50-59,

2006.

赤嶺淳「「テロとの戦い」のかけで—フィリピンのムスリム問題のいま」『人間文化研究所年報』創刊号: 36-39, 2006.

赤嶺淳「見えないアジアを歩く 9—ダイナマイトに湧く海」『あとん』5月号: 50-53, 2006.

長津一史「イスラームの制度化と宗教変容—マレーシア・サバ州、海サマ人の事例」『南太平洋海域調査研究報告』43: 45-69, 2006.

長津一史「書評 信田敏宏著『周縁を生きる人びと—オラン・アスリの開発とイスラーム化』」『文化人類学』71 (1): 144-147, 2006.

島上宗子「日本とインドネシアの山村の知恵を結ぶ—コモンズの保全をめざして」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』8: 372-383, 2006.

小野林太郎「土器・陶磁器から見たセレベス海域の交易・歴史時代：交易ネットワーク・複合社会の発展過程に関する歴史考古学的試論」『上智アジア学』23: 179-200, 2006.

岡本正明「自治体新設運動と青年のポリテイクス—ゴロンタロ新州設立運動（1998年～2000年）に焦点を当てて」『東南アジア研究』45 (1) 印刷中

松井和久「インドネシアと一村一品運動—導入の機は熟したか」『アジア研ワールドトレンド』137: 26-29, 2007.

Siti Sugiah M. Mugniesyah, Mizuno Kosuke. “Access to land in Sundanese community: A case study of upland peasant households in Kemang Vilalge, West Java, Indonesia.” *Southeast Asian Studies*, 44 (4): 519-544, 2007.

(2) 出版物

田中耕司「チョウジの香り、それともたばこの匂い—インドネシアのクレテックたばこ」『まほら』41: 14-15, 2004.

水野広祐「労働者組織の台頭と労使関係制度の展開—インドネシアにおける安定的な労使関係の成立に関する事例研究—」佐藤百合（編）『インドネシアの経済再編—構造・制度・アクター』アジア経済研究所, pp.387-425, 2004.

Okamoto, Masaaki. “Local politics in decentralized Indonesia: The Governor General of Banten Province.” *IAS Newsletter*, 34: 23, 2004.

赤嶺淳「小さな鯉節店の大きな挑戦」藤林泰・宮内泰介（編）『カツオとかつお節の同時代史—ヒトは南へ、モノは北へ』コモンズ, pp. 256-276, 2004.

Akamine, Jun. “Advances in sea cucumber aquaculture and management.” Alessandro Lovatelli et al. (eds.) *FAO Fisheries Technical Paper*, pp.438, 2004.

松井和久「地方分権化後の地方経済とアクター—問われる地方政府の能力」佐藤百合（編）『インドネシアの経済再編—構造・制度・アクター—』アジア経済研究所, pp.347-386, 2004.

田中耕司「地域の資源を誰が利用するのか—「周縁」からの視点」新崎盛暉他（編）『地域の自立 シマの力（上）』コモンズ, pp. 56-180, 2005.

- 水野広祐『インドネシアの地場産業—アジア経済再生の道とは何か?』京都大学学術出版会, 408pp., 2005.
- 岡本正明「再集権化するインドネシア—内務省による権限奪回とユドヨノ新政権の展望」(財)国際金融情報センター(編)『インドネシアの将来展望と日本の援助政策』(財)国際金融情報センター, pp.43-56, 2005.
- 田中耕司『岩波講座「帝国」日本の学知 第7巻 実学としての科学技術』岩波書店, 343pp., 2006.
- 田中耕司「序章 実学としての科学技術」田中耕司(編)『岩波講座「帝国」日本の学知 第7巻 実学としての科学技術』岩波書店, pp. 31-15, 2006.
- 田中耕司・今井良一「植民地経営と農業技術—台湾・南方・満洲」田中耕司(編)『岩波講座「帝国」日本の学知 第7巻 実学としての科学技術』岩波書店, pp.99-137, 2006.
- 水野広祐「合議・全員一致と多数決原理の間で—インドネシアの村落議会と村落会議」杉島敬志・中村潔(編)『現代インドネシアの地方社会—マイクロロジーのアプローチ』NTT出版, pp.148-176, 2006.
- 岡本正明「分権化に伴う暴力集団の政治的台頭—バンテン州におけるその歴史的背景と社会的特徴」杉島敬志・中村潔(編)『現代インドネシアの地方社会: マイクロロジーのアプローチ』NTT出版, pp.43-66, 2006.
- 岡本正明「第7章インドネシア: 権力集中、崩壊、そして分散」片山裕・大西裕(編)『アジアの政治経済・入門』有斐閣, pp. 143-164, 2006.
- Okamoto Masaaki and Abdur Rozaki (eds.) *Kelompok Kekerasan dan Bos Lokal di Indonesia Era Reformasi* (改革期における地方の暴力集団と地方ボス) IRE Press, 183pp., 2006.
- Okamoto, Masaaki. “Broker Keamanan di Jakarta: Yang Profesional dan Yang Berbasis Massa.” Okamoto Masaaki and Abdur Rozaki (eds.) *ibid.*, pp.1-19, 2006.
- Okamoto, Masaaki. “Epilog: Otonomi Masyarakat dan Pembangunan dari Dalam: Belajar dari Jepang. (エピローグ: 住民自治と内発的発展: 日本の経験から)” Abdul Malik and Delfion Saputra (eds.) *Dinamika Otonomi Daerah di Bante* (バンテンにおける地方自治のダイナミクス), pp.169-184, 2006
- Aziz Salam, Wihdat Djafar, and Osozawa Katsuya. “Introducing boats of the Pabbiring Islands: Transformation, typology and technological adaptations.” *Proceedings of Marine Technology Conference (MARTEC) 2006 5th Biennial Conference on Maritime Technology: Intensifying Technology Study for Empowering Maritime Industries towards the Prosperity of Archipelagic Countries*, pp.241-258, 2006.
- Aziz Salam, Ichikawa Masahiro, and Osozawa Katsuya. “The Ironwood Trade from Kalimantan to Sulawesi: A report from several sites on ironwood production.” *Crossing Disciplinary Boundaries and Re-visioning Area Studies: Perspectives from Asia and Africa*, Kyoto: Graduate School of Asian and African Area Studies/Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University,

- pp.397-404, 2006.
- Azis Salam and Osozawa Katsuya. "Evolution of the boat in the Pabbiring Islands." *ibid.*, pp. 508, 2006.
- Fujita Yoshifumi and Osozawa Katsuya. "Organization and Conflict in the Expansion of the Fishing Ground for Rumpon Fishing by Sinjai People." *ibid.*, pp.510, 2006.
- 赤嶺淳「当事者はだれか—ナマコ資源利用から考える」宮内泰介（編）『コモンズをささえるしくみ—レジティマシーの環境社会学』, 新曜社, pp.174-197, 2006.
- 赤嶺淳「ダイナマイト漁の政治生態誌」, 北川隆吉監修（北原惇, 竹内隆夫, 佐々木衛, 高田洋子編）, 『地域研究の課題と方法—アジア・アフリカ社会研究入門・実証編』, 文化書房博文社, pp.233-250, 2006.
- 松井和久・山神進（編）『一村一品運動と開発途上国—日本の地域振興はどう伝えられたか』アジア経済研究所, 266p., 2006.
- Nagatsu, Kazufumi. "Cross-border movements and convertibility of Maritime Networks: A case of the Sama-Bajau in the Sulu-Makassar Sea." *Crossing Disciplinary Boundaries and Re-visioning Area Studies: Perspectives from Asia and Africa*, Kyoto: Graduate School of Asian and African Area Studies/Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, pp.73-85, 2006.
- Dadang Ahmad Suriamihardja. "Promoting weakening local values to manage marine resources of the Spermonde Islands: From compromise to coexistence." *ibid.*, pp. 506. 2006.
- Agnes Rampisela and Masumber Daly. "Role of local government in encouraging coastal management in the Spermonde Islands." *ibid.*, pp.507, 2006.
- Andi Amri. "Utilization and management of marine resources in Spermonde Archipelago: Current condition and future perspectives." *ibid.*, pp.505, 2006.
- 赤嶺淳「ナマコの国際市場と流通の実態」『平成 18 年度「育てる漁業研究会」—ナマコ資源管理の問題点—講演要旨集』, 北海道栽培漁業振興公社, pp.1-12, 2007.
- 赤嶺淳「サマ・地域資源の利用と環境問題」綾部恒雄（編）『失われる文化・失われるアイデンティティ』（講座世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在第 10 巻）明石書店, pp. 285-305, 2007.
- 小野林太郎「後期更新世のセレベス海域における貝利用：インドネシア・タラウド諸島の事例から」丸井雅子（監修）青柳洋治先生退職記念論文集編集委員会（編）『地域の多様性と考古学：東南アジアとその周辺』雄山閣, pp. 321-324, 2007.